

放送大学における地理的要因による受講困難者

—離島居住者の学習状況と解決への道—

黒 須 正 明¹⁾

Geographical Difficulties for Learning at The Open University of Japan

—The Situation for Learning of Those Who Live in Islands and the Possible Solutions—

Masaaki KUROSU

要 旨

放送大学の受講者を増やすための一つの方策として、離島における学生の新規獲得を目指すことが考えられる。そのためには離島居住者の現状を把握する必要があると考え、長崎県の離島（壱岐市、五島市、対馬市）で質問紙調査とインタビュー調査を実施した。調査の結果、一番の課題は面接授業や単位認定試験のために学習センターに出向くための時間的・経済的負担にあることが分かった。また飛行機や船は天候によって欠航することもあり、それも障害要因になっていた。テレビ番組の受講についても、CATV会社の方針で放送大学の番組が放映されていないケースもあり、テキストだけで学習している者もいた。こうした現状を踏まえ、インターネットによる学習環境の整備や、単位認定試験のインターネット経由での実施などを検討する必要があると考えられた。また知名度の低さに対してPRを重視することも必要と思われた。

キーワード：放送大学、離島、受講困難、インターネット

ABSTRACT

One of the possible ways to increase the number of students of The Open University of Japan is to acquire new students in isolated islands. For this purpose, the author conducted a questionnaire survey and an interview research in Nagasaki prefecture (Iki, Goto, and Tsushima). The result showed that the most critical factor for students in such isolated islands is the temporal load and the financial load to go to the learning center so that they can attend the schooling and the examination. Furthermore, planes and ships will be cancelled depending on the weather condition. There were students who study only by the textbook because some CATV companies do not broadcast the program of The Open University of Japan. Based on these findings, it was considered to be necessary to increase the number of streaming programs and to consider about the possibility of the examination via internet.

Key words : The Open University of Japan, isolated island, difficulty for learning, internet

1. はじめに

放送大学では、全国都道府県に57箇所の学習センターを配置し、面接授業や単位認定試験、学習指導、図書やビデオの閲覧や貸し出し、番組視聴などを行い学習者の便宜を図っている。それらの中には、北海道や

青森県などのように、単一の行政区画のなかに複数の学習施設を用意してあるところもある。

現在、放送大学には、全科履修生、選科履修生、科目履修生、特別聴講学生（協定校）をあわせて77,012人が、また大学院には修士全科生、修士選科生、修士科目生をあわせて5,262人が在籍しており、また、これまでに68,885人の卒業生および修了生をだしてい

¹⁾ 放送大学教授（ICT活用・遠隔教育センター）

る。今後も経年的に学習者の人数は比較的安定した数値で推移すると思われる。しかし、まだそのほかに、潜在的受講者として、1. まだ放送大学のことを知らない人々、2. 放送大学に関心を持ってはいるものの仕事や家庭の事情から学習ができない人々、3. 放送大学に関心を持ってはいるものの国外に在住しているために学習ができない人々、4. 日本語を学習している外国の方で日本語での学習を望んでいるが放送大学を知らない人々、5. その他の事情により放送大学での学習が困難な人々などがある。

特に、3に分類される人々については、2010年度に教務委員会の下に海外モニターワーキンググループが設置され、2010年度から調査活動を開始している。ここでは、米国ニューヨークなどに居住する日本人をモニターとして、インターネットによる学習や、ウェブカメラを利用した単位認定試験の実施（および会場方式も試行されている）などが試行されている。この試みは将来、日系人の多いブラジルや、海外派遣者の多い東南アジアなど、世界各地への展開が可能であり、成果が注目されている。

また、4に分類される人々については、2011年度の学長裁量経費により、九州地域の学習センター長と放送大学教員から構成されるアジア展開研究会が組織され、中国や台湾に出張して、各地域での日本語教育の現場での状況調査を実施している。

5には、学習センターからの山間僻地居住者や離島居住者などの遠隔地居住者が含まれる。こうした人々は、テレビやラジオによる放送授業が受講可能であっても、単位認定試験や面接授業などのために学習センターに通うのに時間や費用がかかり困難な状況に置かれていると思われる。そこで、2011年度の学長裁量経費が認可されたことから、離島居住者に関する実態調査を行うことにした。本論は、その中間報告に該当する。

なお、山間僻地居住者については、陸上交通手段の連続的利用が可能である点や、全国に分散して居住しているために調査が難しい点を考慮し、今回は離島居住者に焦点を当てることとした。ただし、山間僻地居住者についても離島居住者と同様、学習センターの利用に際して長時間の移動や宿泊の必要性が生じている可能性はあり、その実態把握が求められているが、離島居住者に関する調査結果を敷衍することで、その問題点を推測することができるだろう。

2. 離島居住者

2.1 離島

離島とは、「陸地から遠く海中に離れてある島。」[広辞苑第六版]のことであり、部分的に本土（ここでは、北海道、本州、四国、九州、沖縄本島の意味）とつながっている場所は含まない。

全国にある島嶼の数は6,852であり、そのうち離島の数は6,847である。離島のうち258島が有人島であり、

表1 離島人口の推移（国土交通省[1]より）

	離島人口
昭和35年	923,062
昭和40年	837,949
昭和45年	736,712
昭和50年	666,341
昭和55年	630,538
昭和60年	597,487
平成2年	546,505
平成7年	509,105
平成12年	472,312
平成17年	433,712

そのうち北海道の6島を除く252島（104市町村）が、離島振興法による離島振興対策実施地域に含まれている[1]。なお、その他、小笠原諸島振興開発特別措置法の対象が2島、奄美群島振興開発特別措置法の対象が8島、沖縄振興特別措置法の対象が39島ある[2]。

離島振興に関しては、法的措置が取られている他、日本離島センターのような組織が活動している[3]。

2.2 離島人口

離島人口は、表1のように漸減傾向にある。また、離島振興対策の対象となっている離島を表2に示したが、なかでも瀬戸内海地域、長崎県、鹿児島県に離島が多く、また沖縄県にも離島が多い。

3. 放送大学と離島居住者

3.1 学習センターまでの時間的・経済的負担

放送大学の学習センターの選択は学習者に任されており、自分の居住都道府県にあるセンターに限定されてはいない。その意味で、各離島から通うことが想定される学習センターは複数あることになる。

それを代表的な離島に関して一覧表の形にまとめたものが付表1である。表の作成にあたっては、具体的には次のような形で、具体的な交通手段をリストアップし、それぞれの所要時間と所要金額（片道）を算出している。なお、島内での移動時間は含んでいない。また宿泊費用は含んでいない。

たとえば、伊豆大島から千葉学習センターへの移動については、表3のようにAからDまでの4種類の移動手段があり、おのおのについて基礎データを算出している。

付表1はその合計の値だけを一覧表にしたものである。なお、この表では、潜在的学習者を想定しており、リストされた離島に放送大学の学生が居住しているとは限らない。スペースの関係で付表1では、すでにインタビュー調査を実施した長崎県と、今後インタビュー調査を計画している東京都と鹿児島県のデータだけを掲げている。

付表1では表3のような具体的な交通手段について

表2 離島振興対策の対象地域

都道県名	指定地域	島 (有人離島)	市町村	面積 (km ²)	人口(人) 平成12年 国調	人口(人) 平成17年 国調
北海道	5地域	6島	6町	416.63	15,634	13,994
宮城県	3地域	9島	3市1町	24.58	6,175	5,413
山形県	1地域	1島	1市	2.70	316	275
東京都	1地域	9島	2町6村	291.95	24,816	26,021
新潟県	2地域	2島	1市1村	864.08	72,622	67,824
石川県	1地域	1島	1市	0.55	164	100
静岡県	1地域	1島	1市	0.44	303	353
愛知県	1地域	3島	2町	3.51	4,605	4,357
三重県	1地域	6島	2市	13.83	5,625	4,914
兵庫県	2地域	6島	3市1町	54.48	10,748	9,300
島根県	2地域	4島	1市3町1村	342.84	25,239	23,696
岡山県	5地域	15島	5市	31.13	4,076	3,330
広島県	6地域	12島	6市1町	61.23	13,214	11,982
山口県	7地域	21島	7市4町	64.67	5,817	5,004
徳島県	2地域	2島	1市1町	2.10	344	299
香川県	3地域	21島	5市3町	63.45	9,261	8,044
愛媛県	10地域	32島	6市1町	86.35	18,847	16,820
高知県	1地域	2島	1市	11.31	367	280
福岡県	1地域	8島	4市1町	13.25	3,008	2,416
佐賀県	1地域	7島	1市	10.96	2,545	2,197
長崎県	8地域	54島	8市2町	1,568.27	171,883	155,614
熊本県	1地域	6島	2市	20.67	4,607	4,046
大分県	2地域	7島	2市1村	17.44	5,967	5,126
宮崎県	2地域	3島	3市	5.16	1,388	1,218
鹿児島県	7地域	20島	4市4町2村	1,253.30	59,071	56,119
合計	76地域	258島	68市31町11村	5,224.88	466,642	428,742

は省略してあるが、基本的に所要時間が短ければ費用がかかるというトレードオフの関係を見ることができると。付表1では省略したが、瀬戸内海にある離島は、本土や四国などに近いと、時間的・経済的負担が他の離島に比べると比較的軽いこともわかった。

いずれにせよ、離島居住者にとっては学習センターまでの移動が時間的・費用的に苦しい状況にあることが明らかとなった。こうした状況は、放送大学の現在学生にとって大きな負担となっているだけでなく、潜在的学習者にとっても入学を躊躇させる原因のひとつとなっている可能性がある。

3.2 離島における在学生の実態

離島が多く、またその所在地が遠隔にある都道府県としては、東京都、長崎県、鹿児島県、沖縄県があり、それらの地域の主要離島には放送大学の学生が居住している可能性も高いと考え、まず長崎学習センターの崎山所長のご厚意により、長崎県に居住する学生を対象とした調査を行うこととした。

長崎県に居住する学生のデータをいただいたところ、壱岐、五島、対馬に学生が居住していること、必ずしも長崎学習センターだけではなく距離的に近い福

岡学習センターにも在籍していることがわかった。すなわち、長崎学習センターには、壱岐2名、五島9名、対馬1名が、また福岡学習センターには、壱岐4名、五島1名、対馬13名がそれぞれ在籍していた。

次いで、情報推進課のご協力により、鹿児島県と東京都の離島居住学生についてのデータを調べたところ、まず東京都では、伊豆大島9名、三宅島1名、新島2名、御蔵島2名、神津島1名、八丈島3名、小笠原母島1名が在籍していること、また鹿児島県では、奄美大島60名、喜界島2名、徳之島19名、沖永良部島8名、与論島5名、種子島5名、長島3名、硫黄島1名、竹島1名、上瓶島2名、下瓶島1名がそれぞれ在籍していることが分かった。この概要調査から、小笠原母島を含め、相当な長距離から学習センターに通う学生の在籍していることが明らかとなった。

さらに、その実態を把握するために質問紙調査を行い、その回答者の中から、インタビューに協力していただける方々にインタビュー調査を実施することとし、まず長崎県の離島居住者を対象として調査を開始した。なお、鹿児島県と東京都については、今後、同様の調査を計画している。

表3 伊豆大島から千葉学習センターへの移動の負担

案	交通手段	所要時間	時間合計	費用
A	竹芝棧橋（高速船）	1時間45分	2時間41分～ 2時間48分	6,940、8,590 (7、8月)
	徒歩	1分		
	竹芝駅→幕張駅又は海 浜幕張駅（電車）	40～47分		720
	徒歩	15分		
B	竹芝棧橋（大型船）	4時間10分～8時間	5時間6分～ 9時間3分	4,270、5,760 (7、8月)
	徒歩	1分		
	竹芝駅→幕張駅又は海 浜幕張駅（電車）	40～47分		720
	徒歩	15分		
	*前宿泊			
C	調布空港（飛行機）	35分	2時間11分～ 2時間25分	9,500
	タクシー	15分		1,600
	調布又は武蔵境駅→ 幕張駅又は海浜幕張駅 （電車）	1時間6分～1時間20分 （乗換時間含まず）		800～890
	徒歩	15分		
D	羽田空港（飛行機）	35分	1時間40分～ 2時間1分	13,170（10月）、 14,270（7、8月）
	徒歩	5分		
	羽田空港→幕張駅又は 海浜幕張駅（電車） 羽田空港→海浜幕張駅 （バス）	45分～1時間6分 （乗換時間含まず）		1,010（電車） ～1,120（バス）
	徒歩	15分		

3.3 長崎県離島における質問紙調査

3.3.1 実施要領

長崎学習センターと福岡学習センターに在籍している壱岐市6名、五島市10名、対馬市14名の学生、合計30名（うち、男性6名、女性24名）に対して、挨拶状、長崎学習センターの崎山所長に作成していただいた協力依頼状、同意書、質問紙調査用紙、返信用封筒を同封して、2011年7月初旬に送付した。最終の回答者を待って2011年7月末に集計を行った。

調査用紙の回収後、回答者には薄謝を送付した。また調査用紙の作成にあたっては、筑波大学（日本学術振興会特別研究員）の橋爪氏の、データ整理には事務補佐の蓬萊氏の協力をいただいた。

質問紙の内容は付表2に示すようなものである。最初にデモグラフィック属性を尋ね、次いで、パソコンやインターネットの利用状況、携帯電話の利用状況、放送大学の受講動機や学習センターの利用実態を尋ねた。最後に、インタビューへの協力の可否を伺った。

3.3.2 回収内容

有効回答数はそれぞれ、壱岐市3名、五島市5名、対馬市9名の合計17名であり、回収率は57%と良好であった。学習センター別に見ると、長崎学習センター所属が7名、福岡学習センター所属が10名であり、性別では、男性3名、女性14名であった。平均年齢は

42.3才、レンジは24才から63才であった。職業は、看護師（準看護師、ホームヘルパーを含む）が8名と最多であり、その他、主婦、公務員、教員などが含まれていた。また学籍については、高卒3名、高専卒3名、専門学校5名、短大卒1名、大学卒3名、大学院卒2名であった。

3.3.3 パソコンやインターネットの利用状況

パソコンは17名中15名が保有しており、利用年数の平均は13年、レンジは6年から20年、これまでの使用台数の平均は3.7台、レンジは1台から12台であった。回答者の範囲内では、比較的良く利用されているといえる。

用途別にみると、インターネットの検索・閲覧が週に1～2回、次いで文書作成、メール、インターネットショッピングが月数回以上といった内容であった。表計算や写真の整理・加工にも時々利用している様子である。

パソコン利用が楽しいかどうかという点では大多数が楽しいと回答していたが、使うのが簡単かという点に逆して大多数が難しいと回答していた。ただ、モチベーションは高く、ほぼ全員がもっと活用できるようになりたいと回答した。なお、タッチタイピングについては、過半数ができないと回答していた。

インターネットについては、回答者15名中12名が接

続しており、その接続方法は、CATVが3名、ADSLが6名、光ファイバーが3名であった。利用時間に平日と休日の差はほとんどなく、仕事で使うこともあるが、多くはプライベートな利用であった。Skypeやメッセージの利用については、回答者12名中、利用している者が4名、利用していない者が4名、そのことを知らない者が4名であった。それに対応して、ヘッドセットやウェブカメラの保有者は4名だけであった。

なお、メールアドレスは、携帯メールを含めて17名中12名が保有していた。

3.3.4 携帯電話の利用状況

携帯電話は17名の回答者全員が保有していた。利用年数は、平均して10年半、レンジは5年から14年であった。これまでに利用した台数は、平均4台、レンジは2台から8台であった。

利用目的では、通話、時間の確認、メール、目覚まし機能が、この順にほぼ毎日から週に1～2日以上利用されており、その他に、インターネット検索・閲覧、ショートメールや写真撮影、メモ帳が時々利用されていた。

携帯電話の利用が楽しいという回答は17名中12名であり、使うのは簡単だという回答は9名であった。パソコンと同様、もっと活用できるようになりたいと考えている者は11名と多く、モチベーションの高さをうかがわせる。

3.3.3の結果とあわせると、少なくとも回答者の範囲ではICTの利用実態は比較的高水準といえるだろう。

3.3.5 放送大学の利用状況

まず受講の理由については、看護師が多かったことと関係して、資格取得という理由が17名中10名と多かった。目指している資格としては看護師の資格の他、大卒、学芸員が含まれていた。その他には、専門の勉強がしたい（そのなかでは心理学がトップ）、本格的な勉強がしたかった、といったものが含まれていた。

学習センターの利用については、ほぼ全員が交通の便の悪さ（時間と費用）を指摘していた。また、飛行機や船の場合には天候によって欠航することがあること、前泊も含めて宿泊費が負担になること、単位認定試験のために長期間（1週間程度）の休みが取れないこと、学割がでないことなどが指摘されていた。なお、回答者のうち、飛行機を利用している者が7名おり、他は船を利用していた。所要時間については1時間という者もいたが、それは飛行機利用者であり、その場合、片道1万円以上をかけていた。船の利用者を含めた平均運賃は7300円であった。また平均の所要時間は2時間半であり、船の利用者の中には、片道5時間近くかかる者もいた。

このように、予想されたことではあるが、離島居住者にとって、学習センターの利用は、時間と費用の負担が大きく、その結果として、まだ学習センターを利用していないという者が17名中3名も含まれていた。

アメリカ居住者に対して遠隔試験が試行されていることを念頭におき、単位認定試験を自宅で受講できたらどうかという質問をしたところ、時間と費用の点で楽になるのでそうならばありがたいという意見が圧倒的に多かった。その一方で、科目選択を工夫すれば試験日を2～3日に集中させられるし学習センターに通うことは学生生活を送る励みにもなっているという意見があった。また緊張感がなくなり勉強をしなくなるかもしれないという回答や坎ニングの誘惑に負けてしまいそうだという回答もあった。その他、パソコンの不保有者からは、これからパソコンの使い方を学習しなければならず、すぐには利用できないだろうとの声もあった。

3.4 長崎県離島におけるインタビュー調査

3.4.1 実施要領

質問紙の回答者17名のうち、12名からインタビューに応じて良いという意向をいただいたため、調査者とインフォーマントの日程調整と場所（壱岐市、五島市、対馬市を含めること）を考慮して、8月上旬に8名に対してインタビュー調査を実施することにした。

インフォーマントとして協力いただく予定者は、表4に示す8名の方々であったが、CさんとHさんとは日程の調整が難しく、実際にインタビューを実施できたのは6名であった。なお、対馬市には厳原町に総合病院があるため、全員が看護師となった（看護学校との単位互換のために放送大学に入学した経緯が今回のインタビュー調査で確認が取れた）。また壱岐市のAさんは、対馬市出身者であったため、対馬市の生活環境などについても話を伺うことができた。

3.4.2 リサーチクエスチョン

基本的な質問事項については、すでに質問紙で伺ったので、インタビューでは以下のようなリサーチクエスチョンを設定し、半構造化手法を用いてこれらについて質問をした。

(1) 離島における日常生活について：

- ショッピング、
- 通販の利用、
- 物価、
- 交通機関の利用、
- 保有機器やインターネットの利用、
- 島での暮らしとその利便性など

表4 インタビューのインフォーマント

Aさん	男/46歳	壱岐市	国家公務員
Bさん	女/39歳	対馬市	看護師
Cさん	女/48歳	対馬市	看護師
Dさん	女/42歳	対馬市	看護師
Eさん	女/52歳	対馬市	看護師
Fさん	女/ 歳	対馬市	看護師
Gさん	女/63歳	五島市	ホームヘルパー
Hさん	女/63歳	五島市	専業主婦

(2) 放送大学について：

- 放送大学を知ったきっかけ、
- 教材の整備や質、
- 大学としてのあり方、
- 周囲の認知度に関して、
- 日々の学習スタイルについて、
- 学習センターの利用とその交通手段、
- 面接授業について、
- 単位認定試験について、
- 受講環境やパソコンの利用など

3.4.3 インタビューの実施

自宅で実施したケースは2名で、その他のインフォーマントについては市民ホールなどで実施した。所要時間は2時間を予定し、ほぼ全員が予定時間で終了した。なお、インタビューには、橋爪氏にも同席してもらい、補足的質問やインタビューの記録などを行ってもらった。インタビュー終了後、デブリーフィングを行い、回答内容の確認を行った。

3.4.4 インタビューの結果

インタビューの結果は外部委託によってテキスト化し、その内容分析を行った。特にGTAなどの手法は利用していない。その結果の概要を以下に内容別に要約する。

(1) 日常生活

壱岐市や五島市では比較的島全体に分散して居住しているが特に対馬市では、大半が島の中心市街に居住している。

農業や漁業に従事している永住予定者と、公務員などで任期が来ると異動する一時的居住者とは、島での生活に対する意識が異なっている。

島内での交通は軽自動車の基本であり、日常の買い物以外は、本土に行ったときにまとめ買いをしている。

特に看護師の場合、三交代勤務の中で学習するため、テレビ番組の視聴などが困難な場合がある。

(2) 放送大学への入学

今回のインフォーマントの範囲では、特に対馬市では看護師の方々が多かったことに関係して、資格取得を目的としたケース（Bさん、Dさん、Eさん、Fさん）が多い結果となった。その場合には高い学習へのモチベーションが維持されている。その他は、ともかく勉強がしたいというケース（Aさん、Gさん）であった。なお、資格取得を目指す場合には勉強ができればいいと考えているケースもあり、その場合には卒業資格を取るということには魅力は感じられていない。

なお、離島では、早い場合には中学から、また多くは高校から本土に渡ってしまうことが多く、ストレートに高卒で放送大学に入学するという考えにくいとのことであった。

本土では、定年を契機にして入学することも多いが、離島の場合、農業や漁業を職業としていることが多いため定年という概念がなく、そのため定年を契機に入学をしようというケースは存在しない。

なお、放送大学に関する認知度は低く、周囲にも知っている人が少ない。図書館を訪問したが、そこにパンフレットが置いてある程度で、町中にポスターがあるわけでもなく、アピール度が低いと思われた。看護師の場合は、看護学校で受講を薦められたが、それが無ければ知らなかっただろうという意見だった。

(3) 受講環境

テレビ視聴をしようとした時、CATVで放送大学の番組を流していないこともある（五島市の場合）。この点についてCATV会社を訪ねたところ、社の方針として希望者が多くないため、放送大学の番組は含めていないとのことであった。

テレビで視聴ができない場合には、学習センターからビデオテープを借り出すことになるが、一度に二つまでという制限があって不満を感じている人もいる。

なお、テレビ視聴をせず、テキストだけで学習している人もいた。

(4) 学習センター利用と交通の便

壱岐市と対馬市は長崎県下であるが長崎市内への交通の便が悪く、福岡空港や博多港を利用して福岡学習センターを利用する者が多い。壱岐市と対馬市の在住者で長崎学習センターを利用するのは、長崎に自宅などがある通勤者に限られる。

3.3.5にも書いたように、時間的負担と経済的負担に対する不満は相当大きなものであり、学習センターの活用への、ひいては放送大学利用への大きな阻害要因となっていると思われた。

(5) 面接授業と認定試験

負担の大きな学習センター利用ではあるが、知り合いに会えるのが楽しいとか、ついでにショッピングができるというメリットもある。

可能であれば、面接授業の離島開催や単位認定試験のための離島会場の設置を考えて欲しいが、難しいようであればインターネットの利用を検討して欲しいという意見が多かった。

(6) インターネットでの受講についての意見

インターネットによる学習ができれば良いが、パソコンスキルの獲得が障害になるケースもあるだろうという意見があった。なお、テレビ視聴のためにBSを利用していると、CATVやADSLでインターネットを利用すると出費がかさんでしまう。CATVで放送大学が視聴できれば、インターネット共々利用できて便利である。

4. 考 察

4.1 離島に居住する学生への対応のあり方

今回調査を行った長崎県の離島（壱岐市、五島市、対馬市）においては、面接授業や単位認定試験のために学習センターに行くことの時間的・経済的負担という問題が一番の課題であった。その他には、そもそもテレビ視聴ができない場合があるという問題もあった。

これらの課題を解決するためには、パソコンスキルの習得という壁はあるものの、やはりインターネットの利用を検討する必要があるように思える。現在、放送番組の一部はストリーミング視聴できるようになっているが、これを全科目に適用することが必要だろう。

また、面接授業や単位認定試験については、ある程度の人数がまとまるようであれば離島会場を設置することも検討すべきだろうが、なかなかまとまった人数がおらず、各島に分散している現状では、アメリカ居住者に対して試行したようなインターネット利用が有効と思われる。その場合、大学本部側の負担は増すことになるが、ウェブカメラで受験状況をモニターし、不正行為の防止に努めることになろう。ただし全国の離島を対象にするとすると、本部側でも対処仕切れなくなる可能性があり、その点については、運用と技術の両面から、新たな方策を検討する必要がでてくるだろう。

4.2 今後の課題

離島地域は本土とは大きく異なる地理的環境（学習センターへの時間的費用的負担、など）にあり、また社会的環境（定年がない職業、など）にある。その上に放送大学の知名度が低い（PRが十分になされていない、など）という課題もあり、放送大学が離島地域で普及していくにはまだ困難な要因が多いといえるだろう。

しかし、すでに現在、数少ないとはいえ一定数の学生は居住しているわけであり、彼らに対して適切な配慮を行うことは、学習機会の均等を保証するという考え方からも必須であるといえる。そのためには、学習センターの運用（ビデオの貸し出し本数を増やす、など）や、面接授業のあり方（場合によっては離島会場を設置する、など）、単位認定試験の実施方法（イン

ターネット利用、など）を総合的に検討していく必要があるといえる。

謝 辞

付表1の原表の作成は、事務補佐員の蓬萊美奈子氏が担当してくれました。ここに記してその多大な努力に感謝いたします。

また質問紙調査とインタビュー調査の実施にあたっては、筑波大学（日本学術振興会特別研究員）の橋爪絢子氏の協力を得ることができました。調査用紙作成やインタビュー記録作成等において丁寧な作業を実施してくれたことに感謝の意を表します。

長崎県に居住する現学習者に関するデータをご提供いただいた長崎学習センターの崎山毅所長および福岡学習センターの関係者の方、また、東京都と鹿児島県に居住する現学習者に関するデータを提供いただいた情報推進課にも感謝の意を表したいと思います。

さらに質問紙調査とインタビュー調査にご協力いただいた長崎県に居住する放送大学学生の皆さんには、忙しい時間を割いていただき、貴重なデータをいただいたことに深く感謝いたします。

引用文献

- [1] 国土交通省離島振興課（2011）“離島振興業務の内容”
<http://www.mlit.go.jp/crd/chirit/ritoutoha.html>
- [2] ウィキペディア（2011）“離島振興法”
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9B%A2%E5%B3%B6%E6%8C%AF%E8%88%E6%B3%95>
- [3] 日本離島センター（2011）“しましまネット”
<http://www.nijinet.or.jp/index.php>

なお引用文献中のURLは、2011年11月時点のものである。

（2011年11月7日受理）

		3時間48分～3時間58分	6,410
		4時間33分	4,450
	福岡学習センター	3時間55分～4時間45分	7,030
		4時間40分～5時間20分	5,070
		4時間5分～4時間15分	7,160
		4時間50分	5,200
		5時間25分	4,990
高島	佐賀学習センター	2時間35分	2,190
	長崎学習センター	3時間3分	2,540
		2時間48分	2,390
	福岡学習センター	2時間55分～3時間35分	3,010
		3時間5分	3,140
黒島	佐賀学習センター	3時間5分	2,340
	長崎学習センター	3時間33分	2,690
		3時間18分	2,540
	福岡学習センター	3時間25分～4時間5分	3,160
		3時間35分	3,290
中通島	佐賀学習センター	3時間5分～3時間15分	4,250
		4時間5分～4時間30分	3,050
		5時間5分	3,920
	長崎学習センター	2時間3分	5,870
		1時間53分	5,870
		3時間13分	2,520
		3時間33分～3時間43分	4,600
		4時間33分～4時間58分	3,400
		3時間18分～3時間28分	4,450
		4時間18分～4時間43分	3,250
		5時間33分	4,270
		5時間18分	4,120
	福岡学習センター	3時間25分～4時間15分	5,070
		4時間25分～5時間30分	3,870
		3時間35分～3時間45分	5,200
		4時間35分～5時間	4,000
		5時間25分～6時間5分	4,740
		5時間35分	5,200
		6時間35分	4,990
若松島			
有福島			
奈留島	長崎学習センター	5時間3分～5時間13分	2,520
久賀島	長崎学習センター	2時間57分～3時間12分	6,630
		4時間32分～5時間7分	3,280
		2時間28分	13,270
	福岡学習センター	9時間17分～10時間32分	6,860
		1時間41分～1時間46分	19,600
枕島	長崎学習センター	2時間53分～3時間8分	6,670
		4時間28分～5時間3分	3,320
		2時間24分	13,310
		2時間42分～3時間2分	6,650
		4時間17分～4時間57分	3,300
		2時間13分～2時間18分	13,290
	福岡学習センター	9時間53分～11時間8分	6,900
		1時間37分～1時間42分	19,640
		9時間31分～10時間51分	6,900
		1時間26分～1時間36分	19,640
福江島	長崎学習センター	2時間23分～2時間38分	5,870
		3時間58分～4時間33分	2,520
		1時間44分	12,220
	福岡学習センター	8時間43分～9時間58分	6,100
		57分～1時間2分	18,550
嵯峨島	長崎学習センター	3時間48分～4時間3分	6,320
		5時間23分～5時間58分	2,970
		2時間54分	12,670
	福岡学習センター	10時間8分～11時間23分	6,550
		2時間7分～2時間12分	19,000
江島	佐賀学習センター	3時間55分	3,160
	長崎学習センター	4時間23分	3,510
		4時間8分	3,360
		2時間	850
	福岡学習センター	4時間15分～4時間55分	3,980
		4時間25分	4,110
平島	佐賀学習センター	4時間45分	3,640
	長崎学習センター	5時間13分	3,990
		4時間58分	3,840
		2時間50分	1,350
	福岡学習センター	5時間5分～5時間45分	4,460
		5時間15分	4,590
松島	佐賀学習センター	2時間35分	3,640
	長崎学習センター	3時間3分	3,990

		2時間48分	3,840
		2時間6分～2時間20分	2,200
	福岡学習センター	2時間55分～3時間35分	4,460
		3時間5分	4,590
池島	佐賀学習センター	2時間45分	3,640
	長崎学習センター	3時間13分	3,990
		2時間58分	3,840
		2時間11分～2時間18分	1,200
		2時間6分～2時間13分	1,430
		2時間26分～2時間33分	1,280
	福岡学習センター	3時間5分～3時間45分	4,460
		3時間15分	4,590
伊王島			
沖之島			
高島	長崎学習センター	48分～1時間3分	470

鹿児島県	獅子島	鹿児島学習センター	1時間58分	3,460
			2時間47分	2,110
	上甌島	鹿児島学習センター	1時間57分	4,370
			2時間17分～2時間22分	3,000
			2時間22分	4,370
			3時間7分	3,000
	中甌島			
	下甌島	鹿児島学習センター	2時間42分	4,370
			3時間47分	3,000
			3時間7分	4,370
			2時間47分～4時間27分	3,000
			2時間22分～3時間12分	4,370
	種子島	鹿児島学習センター	4時間43分	3,560
			1時間46分	7,300
			3時間41分	4,100
			1時間20分～1時間45分	13,800
	屋久島	鹿児島学習センター	7時間23分～14時間3分	3,760
			1時間56分	8,000
			2時間41分	8,000
			4時間11分	4,900
			1時間20分～1時間35分	15,100
	口永良部島	鹿児島学習センター	3時間36分～4時間31分	10,050
			5時間51分	6,950
			3時間～3時間15分	17,150
	硫黄島	鹿児島学習センター	3時間56分	7,300
	黒島	鹿児島学習センター	5時間26分	7,300
			6時間11分	7,300
	口之島	鹿児島学習センター	6時間26分	6,310
	中之島	鹿児島学習センター	7時間31分	6,310
	宝島	鹿児島学習センター	13時間26分	8,100
		奄美ランチ試験場	3時間12分	3,230
	奄美大島	鹿児島学習センター	11時間11分～14時間51分	9,350
			16時間21分～17時間31分	10,650
			1時間40分～2時間5分	26,500
		奄美ランチ試験場		
	加計呂麻島	鹿児島学習センター	12時間46分～16時間31分	11,160
			16時間41分～17時間56分	10,910
		奄美ランチ試験場	1時間41分	1,900
			1時間36分	1,810
	請島	鹿児島学習センター	13時間11分～16時間51分	11,800
			17時間6分～18時間16分	11,550
		奄美ランチ試験場	2時間1分	2,450
	与路島	鹿児島学習センター	14時間6分～17時間46分	11,900
			18時間1分～19時間11分	11,650
		奄美ランチ試験場	2時間56分	2,550
	喜界島	鹿児島学習センター	11時間11分～12時間11分	9,350
			1時間55分～2時間10分	25,500
		奄美ランチ試験場	1時間51分	3,830
	徳之島	鹿児島学習センター	15時間21分～15時間41分	11,450
			17時間16分～20時間16分	11,450
			1時間55分～2時間10分	30,200
		奄美ランチ試験場	3時間31分	3,230
			3時間31分～5時間16分	3,230
	沖永良部島	鹿児島学習センター	15時間21分～15時間41分	11,450
			17時間16分～20時間16分	11,450
			2時間～2時間15分	30,700
		奄美ランチ試験場	3時間31分	3,230
			3時間31分～5時間16分	3,230
	与論島	鹿児島学習センター	15時間21分～15時間41分	11,450
			2時間5分～2時間20分	32,200
		奄美ランチ試験場	3時間31分	3,230

付表 2 質問紙調査用紙

A あなたご自身についておろかいたします。

【1】お名前		フリガナ	
◆お名前・フリガナをそれぞれご記入ください。			
【2】性別・お歳		◆あてはまる方に○をお付けください。 ◆数字をご記入ください。	
1. 男性		2. 女性	
【3】ご職業・役職		◆お仕事の業種と役職をご記入ください。	
【4】最終学歴		◆あてはまる方に○をお付けください。	
1. 中学		2. 高校	
3. 短期大学		4. 専門学校	
5. 高等専門学校		6. 4年制大学	
7. 大学院		8. その他()	
【5】ご家族について			
1 婚姻状況		◆あてはまるものに○をお付けください。	
1. 未婚		2. 既婚(配偶者もご健在)	
3. 既婚(死別・離別)			
2 同居されているご家族		◆あてはまるものに○をお付けください。	
1. 配偶者		2. 父母	
3. 兄弟・姉妹		4. 子	
5. その他()			
【6】ご連絡先 ◆それぞれの欄にご記入ください。			
1 ご住所		〒 -	
2 電話番号 (ご自宅の電話、もしくは携帯電話のうち、つながりやすい方)			
3 FAX番号 (お持ちの方のみ)			
4 パソコンのメールアドレス (お持ちの方のみ)			

1

B パソコンやインターネットのご利用の仕方についておろかいたします。

【1】パソコンの保有		◆あてはまる方に○をお付けください。		「なし」と回答された方は、C(4ページ)にお進みください。	
1. あり		2. なし			
【2】パソコンの利用経歴		パソコンの利用年数		これまで利用してきた台数	
◆数字をご記入ください。		年 月 日		現在、 台目	
【3】現在お使いのパソコンについて					
製造会社/型番		種類		OS	
◆デスクトップ(DT)かノート(NB)のあてはまる方を○で囲んでください。		◆WindowsであればMe, 2000, Vista等、MacintoshであればOS8, OS X等をご記入ください。		◆あてはまる方を○で囲んでください。	
◆ご自身のみであれば「本人」、共有であれば「本人」「妻」「長女」等のようにご記入ください(複数記入)					
1 /		DT・NB		自宅・職場	
2 /		DT・NB		自宅・職場	
3 /		DT・NB		自宅・職場	
【4】パソコンの主な用途と頻度について					
◆あなたは次にあげることを、パソコンを用いてどのくらいの頻度で行っていますか。だいたい結構ですので、お知らせください。					
◆それぞれ、あてはまる頻度の番号に○をお付けください。また、その他によく使う機能やソフトなどがあれば、その他欄にご記入のうえ、ご回答ください。					
1 文書作成 (MS Wordなど)		1 2 3 4 5 6		い 年 月 日 1 3 ほぼ	
2 表計算 (MS Excelなど)		1 2 3 4 5 6		な 数 数 週 週 毎日	
3 プレゼンテーション (MS PPTなど)		1 2 3 4 5 6		な 回 回 2 週 週	
4 データベース (MS Accessなど)		1 2 3 4 5 6		な 日 日 日 日 日 日	
5 メール		1 2 3 4 5 6			
6 インターネット検索・閲覧		1 2 3 4 5 6			
7 インターネットショッピング		1 2 3 4 5 6			
8 ホームページ作成やブログ・SNSへの記入		1 2 3 4 5 6			
9 ゲーム		1 2 3 4 5 6			
10 写真や動画の整理・加工		1 2 3 4 5 6			
11 その他よく用いるもの()		1 2 3 4 5 6			

2

B パソコンやインターネットのご利用の仕方についておろかいたします。

【5】パソコンの利用に関するお考え			
◆パソコンの利用に関する、あなたはどのようにお考えや状況について、下記の質問にお答えください。			
◆それぞれ、あてはまる番号に○をお付けください。		1. はい 2. いいえ	
1 パソコンを使うのは楽しい		1 2	
2 パソコンを使うのは簡単である		1 2	
3 パソコンをもっと活用できるようになりたい		1 2	
4 パソコンの使い方を、人から教えてもらうことがある		1 2	
5 パソコンの使い方を、人に教えてあげることがある		1 2	
6 ブラインドタッチ (キーボードを見ないでタイピングができる)		1 2	
【6】パソコンの操作の学習			
◆パソコンの操作の学習のために、これまであなたが行ってきたことについて、あはまる番号に○をお付けください (複数回答可)			
1. 独学		2. 学校教育	
3. 職場での研修		4. 団体主催の講習会	
5. 家族から教わる		6. 友人から教わる	
7. その他()			
【7】インターネット接続について			
1 現在ご自宅でご使用されているパソコンは、インターネットに接続していますか。		◆あてはまる方に○をお付けください。	
1. している		2. していない	
「していない」と回答された方は、C(4ページ)にお進みください。			
2 インターネットへの接続方式はどれですか。		◆あてはまるものに○をお付けください。	
1. ケーブルテレビ		2. ADSL	
3. 光ファイバー		4. モバイル型データ通信	
5. わからない			
3 インターネットへは、1日に平均してどのくらい接続していますか。		◆おおよそで結構ですので、数字をご記入ください。	
普段の日：お仕事で _____ 時間、アラバートで _____ 時間			
お休み日：お仕事で _____ 時間、アラバートで _____ 時間			
4 インターネットをSkypeを利用したことがありますか。		◆あてはまる方に○をお付けください。	
1. ある		2. ない	
3. Skypeを知らない			
5 ヘッドセット(イヤホン、マイク)やウェブカメラをお持ちですか。		◆あてはまる方に○をお付けください。	
1. ある		2. ない	

3

C 携帯電話のご利用の仕方についておろかいたします。

【1】携帯電話の保有		◆あてはまる方に○をお付けください。		「なし」と回答された方は、D(6ページ)にお進みください。	
1. あり		2. なし			
【2】携帯電話の利用経歴		携帯電話の利用年数		これまで利用してきた台数	
◆数字をご記入ください。		年 月 日		現在、 台目	
【3】現在お使いのパソコンについて					
キャリア(携帯電話会社)		製造会社		型番	
◆あてはまる会社名を○で囲んでください。		◆お使いの携帯電話の機種を製造しているメーカーを○で囲んでください。		◆ご自身のみであれば空欄のままご結構ですが、ご夫婦で共用している場合などはその旨をご記入ください。	
1 NTT docomo・au・Softbank					
2 NTT docomo・au・Softbank					
【4】携帯電話の主な用途と頻度について					
◆あなたは次にあげる携帯電話の機能を、どのくらいの頻度で使っていますか。だいたい結構ですので、お知らせください。					
◆それぞれ、あてはまる頻度の番号に○をお付けください。また、その他によく使う機能が、その他欄にご記入のうえ、ご回答ください。					
1 通話		1 2 3 4 5 6		い 年 月 日 1 3 ほぼ	
2 メール		1 2 3 4 5 6		な 数 数 週 週 毎日	
3 ショートメール		1 2 3 4 5 6		な 回 回 2 週 週	
4 インターネット検索・閲覧		1 2 3 4 5 6		な 日 日 日 日 日 日	
5 インターネットショッピング		1 2 3 4 5 6			
6 ホームページ作成やブログ・SNSへの記入		1 2 3 4 5 6			
7 時間の確認(時計の代わり)		1 2 3 4 5 6			
8 目覚まし機能		1 2 3 4 5 6			
9 ゲーム		1 2 3 4 5 6			
10 メモ帳		1 2 3 4 5 6			
11 ブックリーダーとして読書		1 2 3 4 5 6			
12 写真や動画の撮影		1 2 3 4 5 6			
13 音楽やビデオの視聴		1 2 3 4 5 6			
14 その他よく用いる機能()		1 2 3 4 5 6			

4

C 携帯電話のご利用の仕方についておうかがいします。

【5】携帯電話の利用に関するお考え

◆携帯電話の利用に関する、あなたはどのようにお考えや状況について、下記の質問にお答えください。

	1. はい	2. いいえ
◆それぞれ、あてはまる番号に○をお付けください。		
1 携帯電話を使うのは楽しい	1	2
2 携帯電話を使うのは簡単である	1	2
3 携帯電話をもっと活用できるようになりたい	1	2
4 携帯電話の使い方を、人から教えてもらうことがある	1	2
5 携帯電話の使い方を、人に教えてあげることがある	1	2
6 文字の入力が速くできる	1	2

【6】携帯電話の操作の学習

◆携帯電話の操作の学習のために、これまであなたが行ってきたことについて、あてはまる番号に○をお付けください（複数回答可）	1. 独学	2. 学校教育	3. 職場での研修
	4. 団体主催の講習会	5. 家族から教わる	6. 友人から教わる
	7. その他()		

D 放送大学についておうかがいします。

【1】放送大学を受講しようと思った理由について自由にご記入ください。

【2】学習センターについて

1 ご自宅から学習センターに行かれる際に、どのような点にご不便を感じられますか。また、特にご不便を感じておられなければ、その旨ご記入ください。

2 ご自宅から、学習センターに行くまでの
(a) 経路、
(b) 全体の交通費(片道)、
(c) 全所要時間(片道)
をそれぞれお答えください。なお、複数の経路がある場合には、最もよく利用されるものを
ご記入ください。

(a) 経路：詳細をご記入ください。

(b) 交通費(片道)：明細(電車やバスなど)を個別にご記入ください。

(c) 全所要時間(片道)：数字でご記入ください。
およそ _____ 時間 _____ 分

3 年に何回、学習センターに行かれますか。数字でご記入ください。

1年に _____ 回程度

【3】インターネットを用いることで、単位認定試験がご自宅で受験できるようになったとしたらどのように感じますか。ご自由にお書きください。

【4】その他に、放送大学のシステムについて感じている問題点や疑問点、ご要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

5

6

長時間、ご協力ありがとうございました。

この回答用紙と、謝金振込用の口座番号などを記載した書類の両方を、同封した返信用封筒に入れて投函してください。

なお、こうした質問紙調査には、詳しく、また器機応変にお話を伺うことができないという欠点があります。そこで、第二次調査としてインタビュー調査の実施を検討しています。

所要時間は2時間程度で、できればご自宅に伺い(ご都合の悪い場合は喫茶店や公民館などで実施します)。ご自宅周辺の状況を写真撮影させていただいたり、特に今回のDの設問に関連した、放送大学としての現状の課題や今後のあり方について、自由にお話をさせていただきたいと思っております。

時期としては8月から9月を予定しておりますが、今回は、対馬、壱岐、五島を対象地域に限定しているため、地域ごとに時期を決めて伺う予定でおります。

このようなインタビュー調査は、調査全体にとって非常に重要ですので、できるだけ協力をいただければ、と考えております。

このような調査にご協力いただけるは、以下にご記入ください。

【1】インタビューの場所

◆あてはまる方に○をお付けください。また、自宅以外の場所をご希望の場合は、ご指定の場所をご記入ください。

1. 自宅への訪問可能	2. 自宅以外の場所であれば協力可能 (指定場所：)
-------------	--------------------------------

【2】インタビューの時期

◆8月～9月の間で、ご都合の悪い時期や日時がありましたら、右の枠内にご記入ください。

7